

平成29年福岡県鉱工業指数の動向

1 概況

(1) 業種別動向（全19業種・主要業種の動向はp.5以降を、全業種の推移はp.13以降を参照）

① 生産

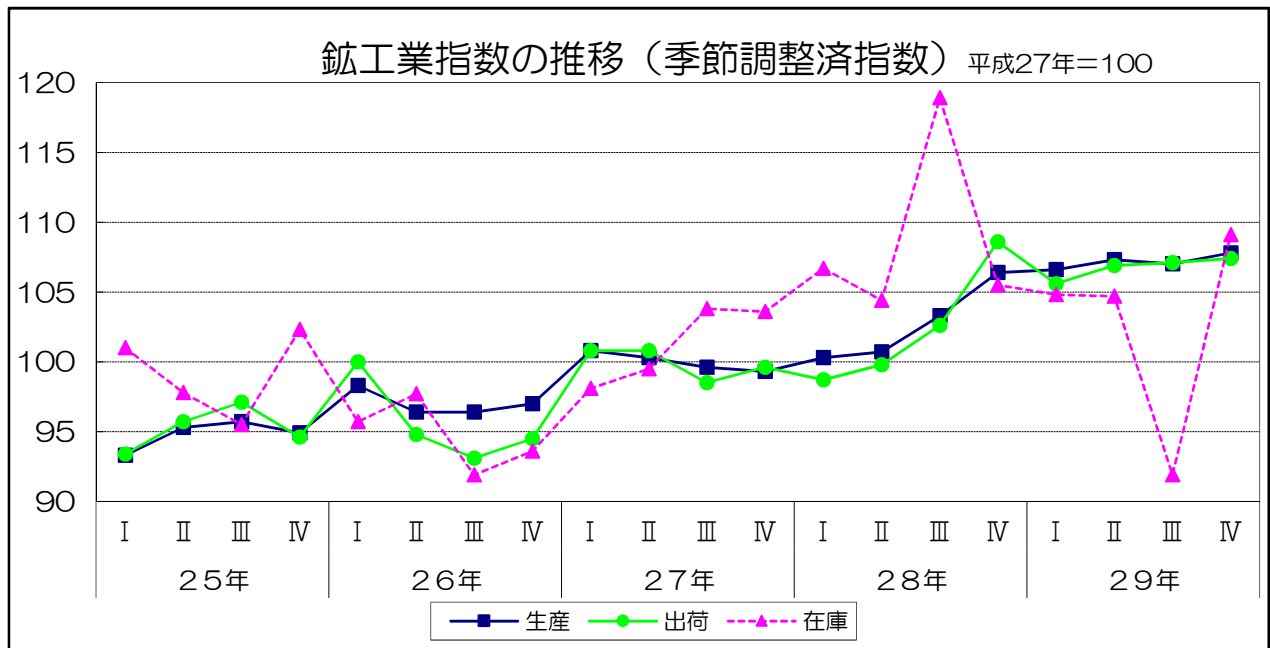
29年の生産指数は107.1で、前年比4.3%増と4年連続の上昇となった。
業種別では、食料品・たばこ工業、金属製品工業など6業種は低下したものの、
電子部品・デバイス工業、輸送機械工業など13業種が上昇した。

② 出荷

29年の出荷指数は106.7で、同4.3%増と4年連続の上昇となった。
業種別では、食料品・たばこ工業、金属製品工業など6業種は低下したものの、
電子部品・デバイス工業、輸送機械工業13業種が上昇した。

③ 在庫（全18業種）

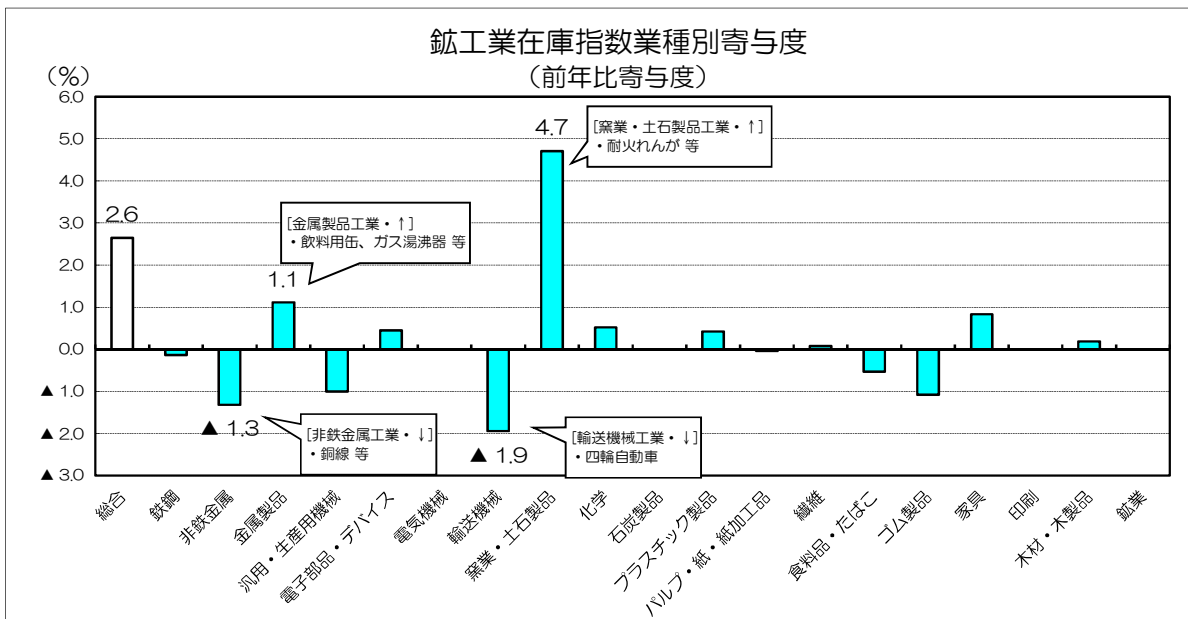
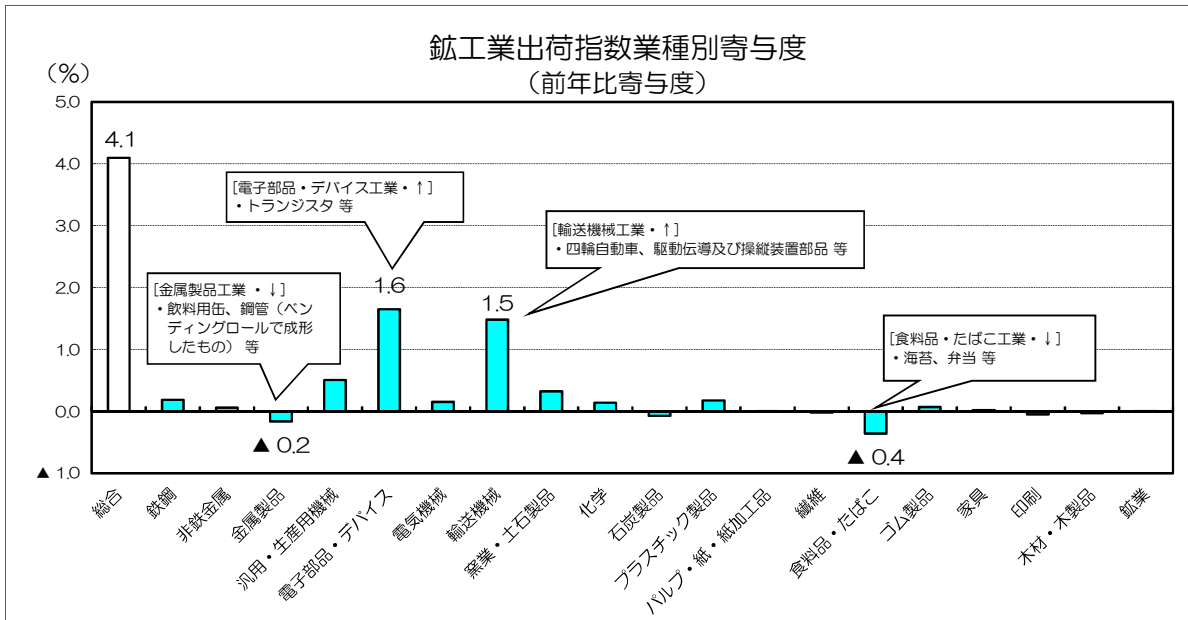
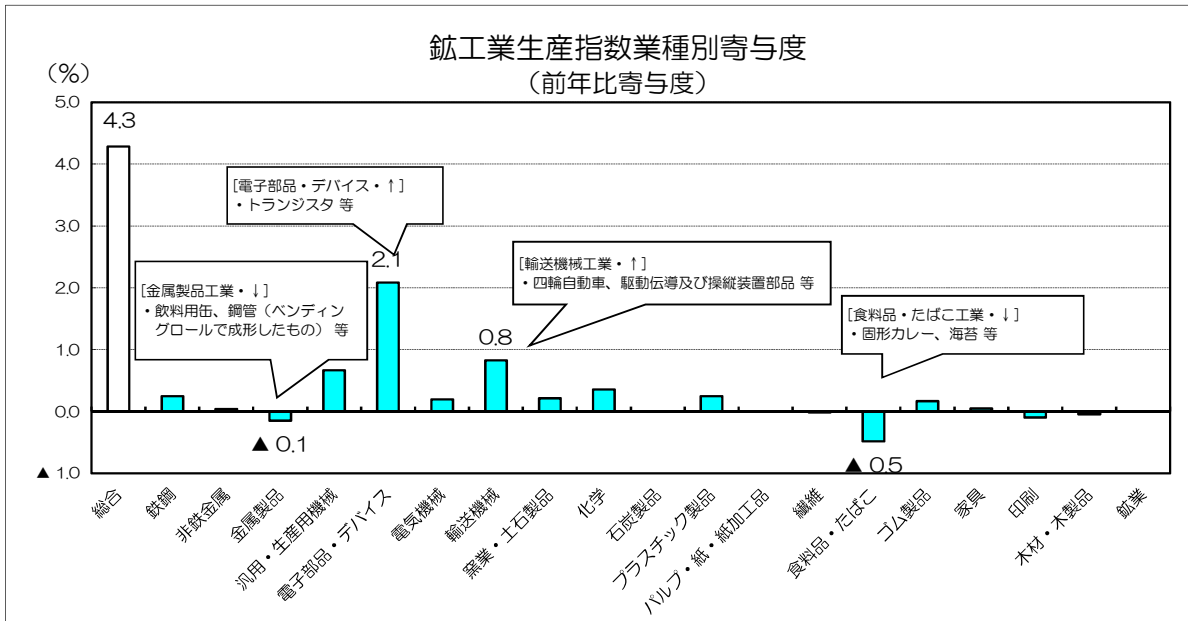
29年の在庫指数は104.7で、同2.6%増と3年連続の上昇となった。
業種別では、輸送機械工業、非鉄金属工業など9業種は低下したものの、
窯業・土石製品工業、金属製品工業9業種が上昇した。



鉱工業指数の推移（年は原指数、四半期は季節調整済指数）

平成27年=100

	25年	26年	27年	28年	29年	平成27年=100			
						I	II	III	IV
生産	94.8	97.0	100.0	102.7	107.1	106.6	107.3	107.0	107.8
前期(年)比	—	2.3	3.1	2.7	4.3	0.2	0.7	▲0.3	0.7
前年同期比	—	—	—	—	—	6.3	6.6	3.2	1.6
出荷	95.2	95.6	100.0	102.5	106.7	105.6	106.9	107.1	107.4
前期(年)比	—	0.4	4.6	2.5	4.1	▲2.8	1.2	0.2	0.3
前年同期比	—	—	—	—	—	7.0	7.0	3.8	▲0.8
在庫	102.6	92.7	101.2	102.0	104.7	104.8	104.7	91.9	109.1
前期(年)比	—	▲9.6	9.2	0.8	2.6	▲0.7	▲0.1	▲12.2	18.7
前年同期比	—	—	—	—	—	▲2.6	▲0.9	▲22.5	2.6



※枠内の品目については、各業種の上昇または下落に寄与した主な品目を掲載

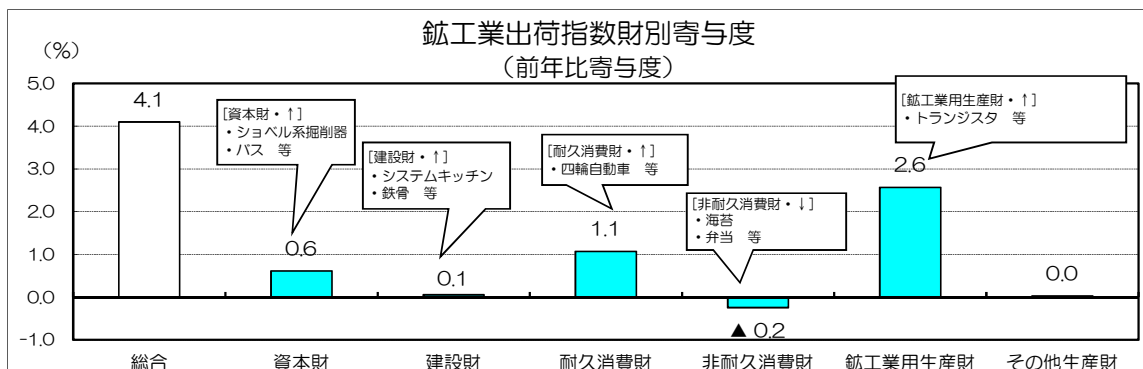
(2) 財別動向（生産・在庫の詳細はp.38以降を参照）

財別の出荷指数を用いて、耐久消費財、資本財などの財の需要動向や、財の動きを通して最終需要の動きを把握することができる。

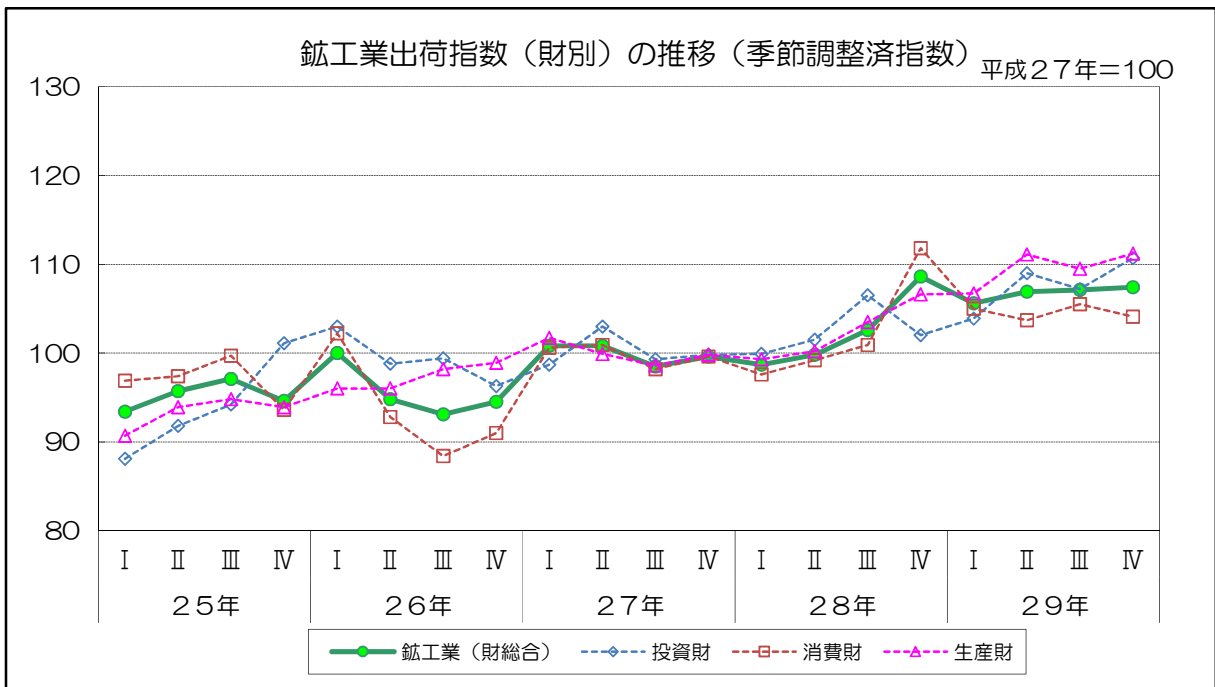
- 総合出荷指数は106.7で、前年比4.1%増で4年連続の上昇となった。最終需要財は同2.3%増と3年連続の上昇となった。生産財は同7.2%増と4年連続の上昇となった。
- 最終需要財のうち、資本財は、ショベル系掘削機、バスなどが上昇したため、同8.3%増で4年連続の上昇となった。建設財は、システムキッチン、鉄骨などが上昇したため、同1.1%増と2年連続の上昇となった。耐久消費財は、四輪自動車などが上昇したため、同2.9%増で3年連続の上昇となった。非耐久消費財は、海苔、弁当などが低下したため、同1.6%減で3年ぶりの低下となった。
- 生産財のうち、鉱工業用生産財は、トランジスタなどが上昇したため、同8.5%増と4年連続の上昇となった。その他の生産財は、自動車タイヤなどが上昇したため、同0.4%増と3年ぶりの増加となった。

鉱工業出荷指数（財別）の推移（年は原指数、四半期は季節調整済指数） 平成27年＝100

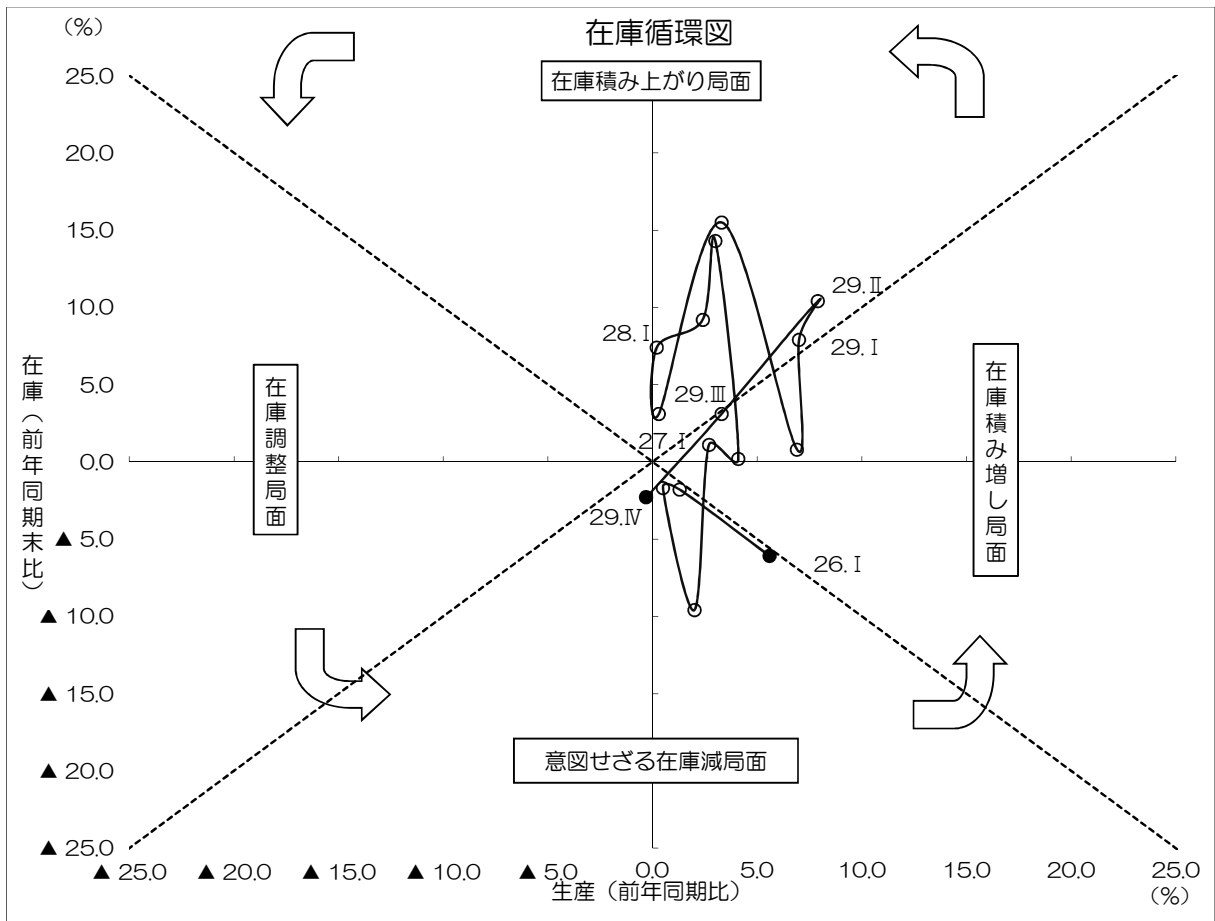
	25年	26年	27年	28年	29年	I	II	III	IV
	鉱工業総合	95.2	95.6	100.0	102.5	106.7	105.6	106.9	107.1
前期（年）比	-	0.4	4.6	2.5	4.1	▲2.8	1.2	0.2	0.3
前年同期比	-	-	-	-	-	7.0	7.0	3.8	▲0.8
最終需要財	96.3	94.6	100.0	102.6	105.0	104.9	104.5	105.9	105.3
前期（年）比	-	▲1.8	5.7	2.6	2.3	▲4.5	▲0.4	1.3	▲0.6
前年同期比	-	-	-	-	-	6.4	4.8	2.8	▲3.8
投資財	93.8	99.1	100.0	102.3	107.8	103.9	109.0	107.2	110.7
前期（年）比	-	5.7	0.9	2.3	5.4	1.9	4.9	▲1.7	3.3
前年同期比	-	-	-	-	-	3.4	8.6	0.7	9.0
資本財	78.3	93.8	100.0	101.1	109.5	103.5	112.5	106.8	114.8
前期（年）比	-	19.8	6.6	1.1	8.3	2.4	8.7	▲5.1	7.5
前年同期比	-	-	-	-	-	7.0	12.6	0.9	13.6
建設財	117.7	107.3	100.0	104.2	105.3	105.5	104.4	106.2	105.3
前期（年）比	-	▲8.8	▲6.8	4.2	1.1	2.4	▲1.0	1.7	▲0.8
前年同期比	-	-	-	-	-	▲1.5	3.1	0.3	2.4
消費財	96.8	93.5	100.0	102.7	104.4	105.0	103.7	105.5	104.1
前期（年）比	-	▲3.4	7.0	2.7	1.7	▲6.1	▲1.2	1.7	▲1.3
前年同期比	-	-	-	-	-	7.2	3.8	3.4	▲6.6
耐久消費財	95.6	92.3	100.0	102.0	105.0	105.8	103.8	106.8	103.6
前期（年）比	-	▲3.5	8.3	2.0	2.9	▲8.8	▲1.9	2.9	▲3.0
前年同期比	-	-	-	-	-	12.8	6.8	5.0	▲10.1
非耐久消費財	99.9	96.4	100.0	104.6	102.9	102.0	102.7	103.2	105.7
前期（年）比	-	▲3.5	3.7	4.6	▲1.6	▲0.3	0.7	0.5	2.4
前年同期比	-	-	-	-	-	▲6.1	▲2.5	▲0.8	2.6
生産財	93.4	97.3	100.0	102.3	109.7	106.7	111.1	109.5	111.2
前期（年）比	-	4.2	2.8	2.3	7.2	0.1	4.1	▲1.4	1.6
前年同期比	-	-	-	-	-	8.0	11.0	5.5	4.6
鉱工業用生産財	92.4	96.4	100.0	103.7	112.5	109.2	114.2	112.4	114.5
前期（年）比	-	4.3	3.7	3.7	8.5	1.1	4.6	▲1.6	1.9
前年同期比	-	-	-	-	-	9.4	12.2	6.4	6.2
その他用生産財	98.3	101.7	100.0	95.5	95.9	94.5	96.9	95.5	95.7
前期（年）比	-	3.5	▲1.7	▲4.5	0.4	▲5.6	2.5	▲1.4	0.2
前年同期比	-	-	-	-	-	0.7	4.2	0.9	▲3.6



※枠内の品目については、財別の上昇または下落に寄与した主な品目を掲載



(3) 在庫循環図（26年1～3月期から29年10～12月期）
 在庫循環状況を見ると、29年は「在庫積み上がり局面」から「在庫積み増し局面」へ推移し、その後「意図せざる在庫減局面」へと推移している。



※在庫循環図の見方
 横軸に生産、縦軸に在庫の前年同月（期）比をとり、生産と在庫の関係から現状を判断する。
 一般的に、右斜め上45°より下にあるときは景気の回復期で、上にあるときは後退期と考えられる。